

# 各停留所の利用者数

## (1) 令和4年度 各停留所の利用者数

令和4年度の各停留所の利用者数は表1のとおりである。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の各停留所の利用者数を比較すると、表2及び表3のとおり「(2) イオンモール東浦」や「(8) アイプラザ」等の一部を除いた停留所で減少していることが分かる。

また、令和4年度と同様にコロナ禍以降の令和3年度の各停留所の利用者数を比較すると、表4及び表5のとおり「(43) 相生の丘」や「(47) 緒川小学校南」等の一部を除いた停留所で増加していることが分かる。

表1 令和4年度 各停留所の利用者数（乗継券利用者数は緒川駅東口から減算）（人）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
緒川駅東口	イオンモール東浦	J A東浦支店	中央図書館北	東浦町交差点	於大公園南	片庭小学校西	アイプラザ	黒塚東浦住宅	石浜住宅口	石浜南	体育館東	生路口	生路分団館所北	生路門田	生路	東浦駅	藤江北	渡船場口	藤江	藤江南	箕子団地	藤江西	藤江小学校西	平池台	上高根台東	上高根台西	高根口	東ヶ丘集会所	東ヶ丘集会所南	東ヶ丘南	東ヶ丘西	東ヶ丘店	東ヶ丘交流館	東ヶ丘ハイイツ	新田保育園	J A新田支店	新田分団館所	緒川新田	東浦知多	
4月	2,564	3,578	167	204	296	150	150	1,246	366	56	150	145	103	13	193	228	398	132	40	135	81	56	36	376	404	45	60	13	114	58	34	74	349	32	122	94	248	505	61	14
5月	2,693	3,669	141	189	289	153	236	1,237	405	60	134	145	78	27	223	236	422	150	34	140	84	57	36	400	430	32	69	17	122	66	22	102	310	36	102	110	252	536	58	19
6月	2,650	3,615	155	206	334	188	228	1,308	441	60	156	170	93	22	212	260	412	113	43	85	128	54	28	456	429	38	60	9	132	77	25	74	302	56	97	112	250	536	49	13
7月	2,589	3,690	151	188	284	154	214	1,322	381	47	147	140	74	25	256	212	445	131	30	99	126	63	51	339	337	29	45	17	113	56	27	67	327	51	115	108	267	577	53	24
8月	2,475	4,072	134	160	315	136	173	1,363	496	46	137	151	67	43	277	260	402	143	35	89	116	58	37	247	172	33	37	36	106	68	42	71	305	32	121	95	240	571	52	46
9月	2,440	3,725	127	205	272	154	224	1,285	485	62	161	133	80	34	228	278	468	121	20	84	117	59	34	323	388	29	51	21	99	43	22	77	317	39	114	88	238	517	36	36
10月	2,638	4,070	171	239	334	188	233	1,458	443	58	168	137	78	30	247	251	457	162	42	85	91	89	32	342	438	42	69	19	129	37	35	102	355	34	110	115	252	570	43	29
11月	2,625	3,802	206	289	329	165	238	1,390	477	49	128	138	78	36	241	288	503	137	76	86	108	98	29	319	402	28	62	13	99	38	36	71	364	43	91	95	258	561	48	25
12月	2,614	4,185	125	219	304	182	179	1,340	466	54	154	143	99	22	181	277	438	117	43	101	108	88	28	285	347	33	56	25	119	48	33	77	400	32	125	104	303	565	66	26
1月	2,538	3,865	114	225	302	164	182	1,292	456	30	150	155	121	25	169	248	388	98	91	82	88	84	33	324	348	30	51	11	88	44	30	66	308	45	99	80	266	525	47	27
2月	2,704	3,683	118	208	329	130	213	1,179	463	54	152	147	101	24	158	289	445	97	50	76	109	127	41	369	409	43	49	13	98	49	15	75	306	20	92	81	265	507	38	29
3月	2,921	4,155	123	163	338	178	258	1,334	529	62	188	133	95	35	167	273	562	145	74	96	91	122	47	333	381	37	51	15	125	59	31	66	360	37	126	139	285	588	59	39
合計(R4)	31,451	46,109	1,732	2,495	3,726	1,942	2,528	15,754	5,408	638	1,825	1,737	1,067	336	2,552	3,100	5,340	1,546	578	1,158	1,247	955	432	4,113	4,485	419	660	209	1,344	643	352	922	4,003	457	1,314	1,221	3,144	6,558	610	327
月平均(R4)	2,621	3,842	144	208	311	162	211	1,313	451	53	152	145	89	28	213	258	445	129	48	97	104	80	36	343	374	35	55	17	112	54	29	77	334	38	110	102	262	547	51	27
合計(H30)	28,728	35,063	769	2,426	6,250	489	981	11,589	5,989	2,011	2,243	1,332	680	457	841	2,970	5,204	1,536	1,070	1,375	2,130	1,324	601	8,879	7,025	-	-	1,296	3,920	1,369	479	1,552	5,820	-	2,433	1,699	3,162	7,665	770	255
H30との増減率(合計比較)	2,723	11,046	963	69	△ 2,524	1,453	1,547	4,165	△ 581	△ 1,373	△ 418	405	387	△ 121	1,711	130	136	10	△ 492	△ 217	△ 883	△ 369	△ 169	△ 4,766	△ 2,540	-	-	△ 1,087	△ 2,576	△ 726	△ 127	△ 630	△ 1,817	-	△ 1,119	△ 478	△ 18	△ 1,107	△ 160	72
増減率 R4/H30	100%	132%	225%	103%	60%	397%	258%	136%	90%	32%	81%	130%	157%	74%	303%	104%	103%	101%	54%	84%	59%	72%	72%	46%	64%	-	-	16%	34%	47%	73%	59%	69%	-	54%	72%	99%	86%	79%	128%
合計(R3)	27,896	40,547	954	2,073	3,183	1,429	1,973	13,989	3,856	401	2,180	1,459	738	257	1,888	2,677	4,134	1,362	435	1,361	1,080	718	348	3,139	4,361	600	391	219	1,193	863	454	1,158	3,522	391	1,590	1,192	2,256	5,794	629	196
R3との増減率(合計比較)	3,555	5,562	778	422	543	513	555	1,765	1,552	237	△ 355	278	329	79	664	423	1,206	184	143	△ 203	167	237	84	974	124	△ 181	269	△ 10	151	△ 220	△ 102	△ 236	481	66	△ 276	29	888	764	△ 19	131
増減率 R4/R3	113%	114%	182%	120%	117%	136%	128%	113%	140%	159%	84%	119%	145%	131%	135%	116%	129%	114%	133%	85%	115%	133%	124%	131%	103%	70%	169%	95%	113%	75%	78%	80%	114%	117%	83%	102%	139%	113%	97%	167%

※停留所番号 26・27・34・48・69・70・73・75・76・77・78 は、令和元年10月から新設した停留所。撤去した停留所は省略。





## (2) 増減者数のトップ3・ワースト3 (令和4年度ー平成30年度)

各停留所の利用者数を、令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度と比較した場合の増減数については、表1及び表2に記載している。表6では、この中でのトップ3とワースト3をまとめている。

表6 令和4年度と平成30年度の増減者数 トップ3・ワースト3 (人)

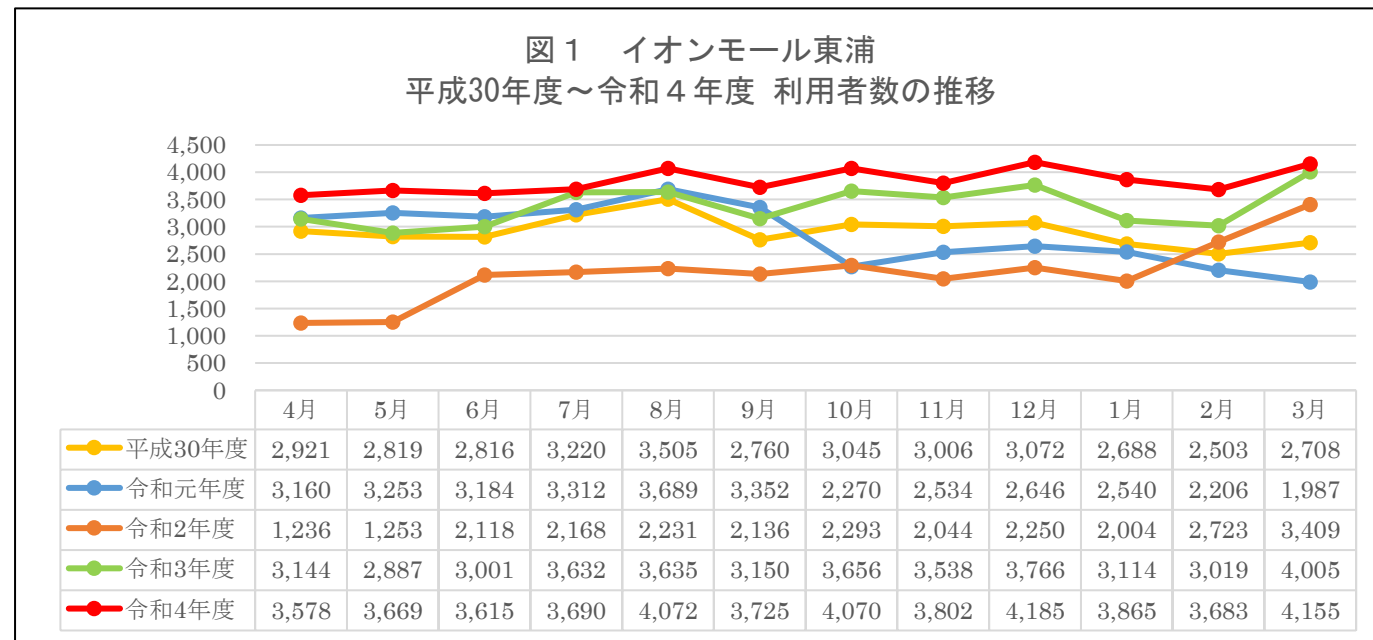
トップ	停留所	増減者数	ワースト	停留所	増減者数		
第1位	2	イオンモール東浦	11,046	第1位	43	相生の丘	△ 11,444
第2位	8	アイプラザ	4,165	第2位	24	藤江小学校西	△ 4,766
第3位	65	刈谷駅南口	4,069	第3位	47	緒川小学校南	△ 3,058

### トップ第1位 イオンモール東浦の利用者数の推移

令和4年度のイオンモール東浦の利用者数は46,109人である。令和3年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、11,046人増(32%増)と大きく増加している。

図1から、令和4年度と平成30年度の利用者数を比較すると、令和3年2月から増加傾向にあること、令和4年度の利用者数はすべての月で上回っていることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、令和3年2月のダイヤ改正時に実施した長寿線のイオンモール東浦への乗り入れが主要因だと考えられる。なお、長寿線での利用者数は7,615人である。



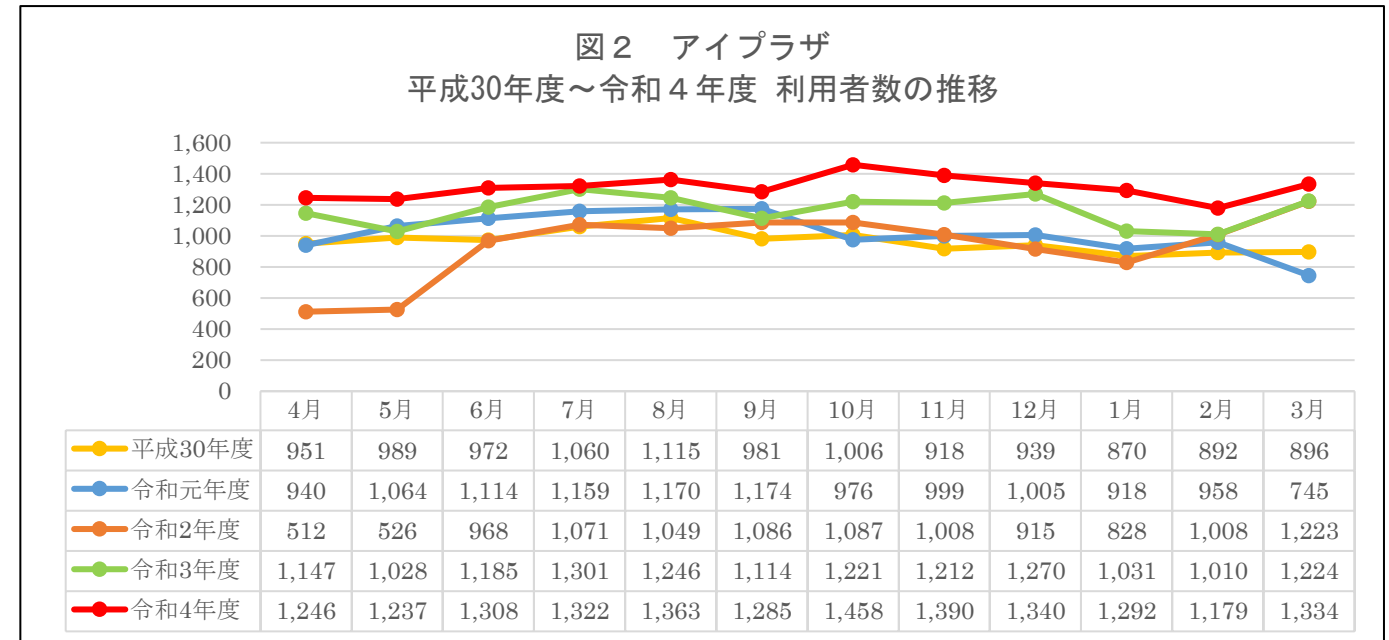
### トップ第2位 アイプラザの利用者数の推移

令和4年度のアイプラザの利用者数は15,754人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、4,165人増(36%増)と大きく増加している。

図2から、令和4年度と平成30年度の利用者数を比較すると、令和3年2月から増加傾向にあること、令和4年度の利用者数はすべての月で上回っていることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、令和3年2月のダイヤ改正時に発着時刻・乗り継ぎ待機時間の見直しや、環状線(左回り)及び東浦高校線(於大公園南経由)等の増便が主要因だと考えられる。

と考えられる。

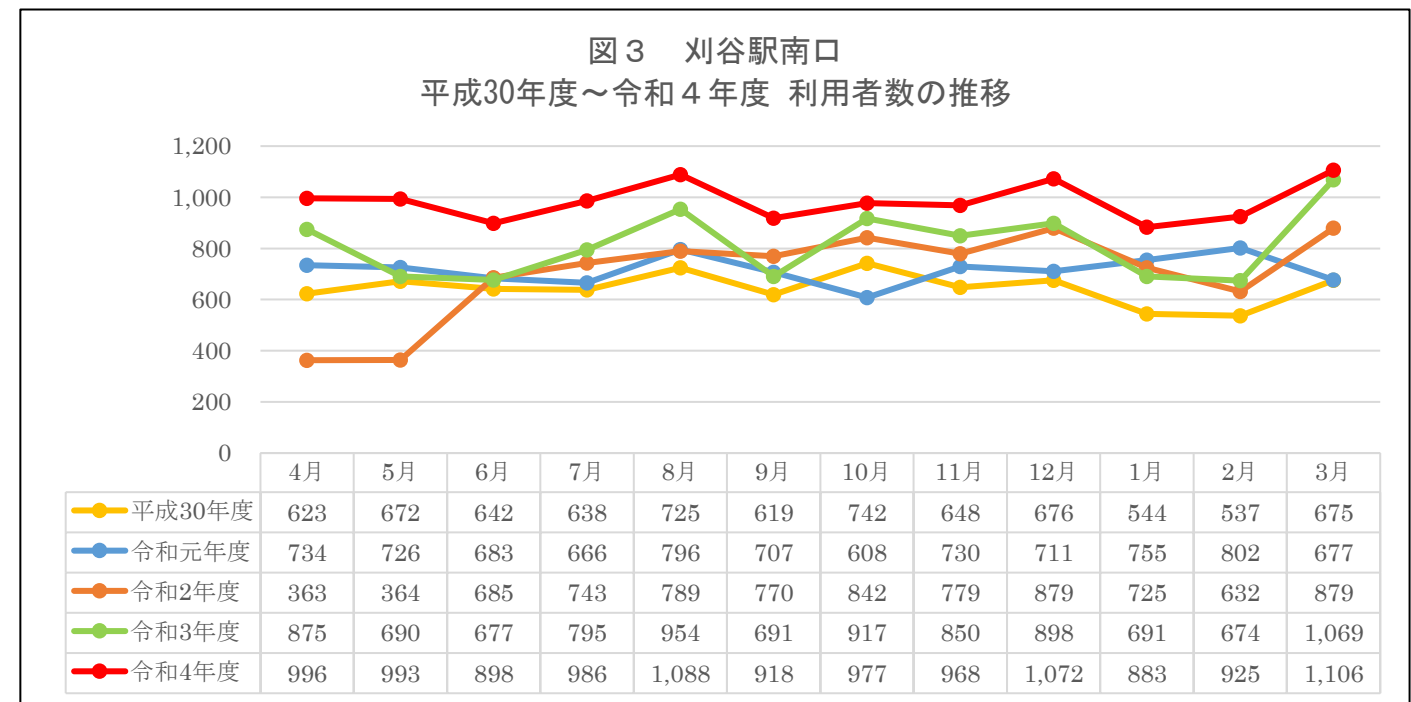


### トップ第3位 刈谷駅南口の利用者数の推移

令和4年度の刈谷駅南口の利用者数は11,810人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、4,069人増(53%増)と大きく増加している。

図3から、刈谷駅南口の利用者数はコロナ禍の影響を大きく受けた令和2年度を除くと増加傾向にあること、令和4年3月から大きく増加していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、令和元年10月のダイヤ改正による刈谷線の増便と、発着時刻・乗り継ぎ待機時間の見直しを行った令和3年2月ダイヤ改正の効果が、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って出始めたことが主要因だと考えられる。



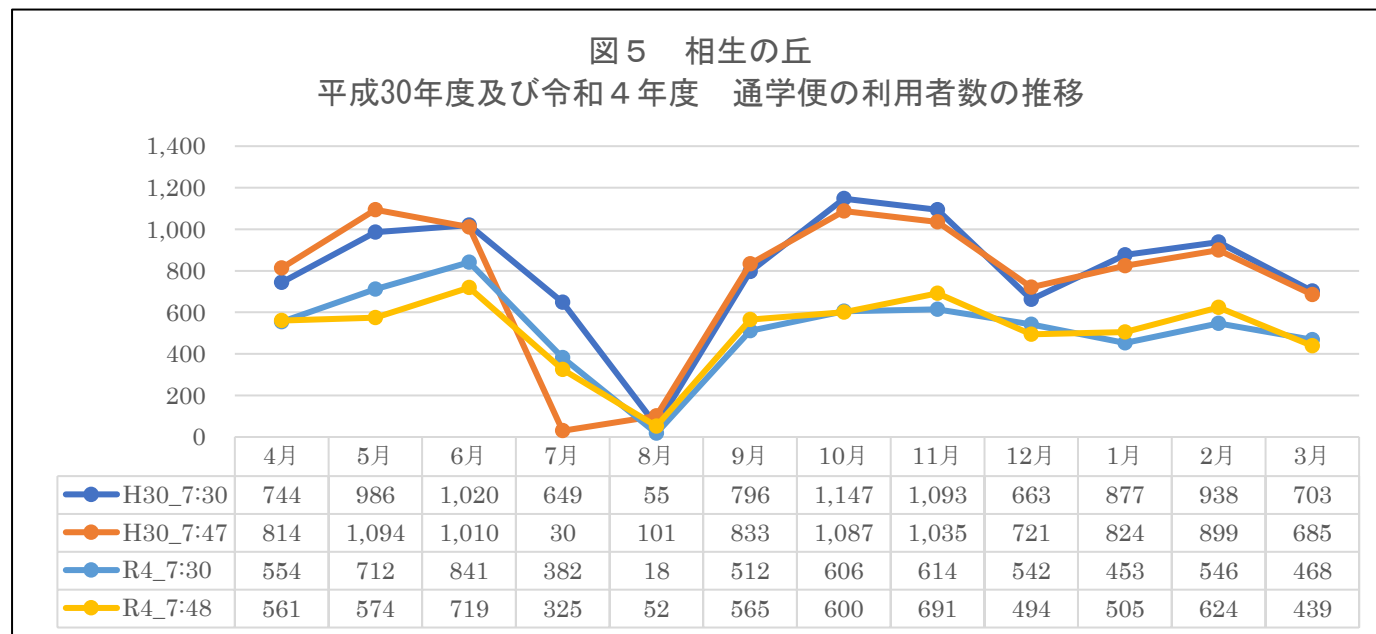
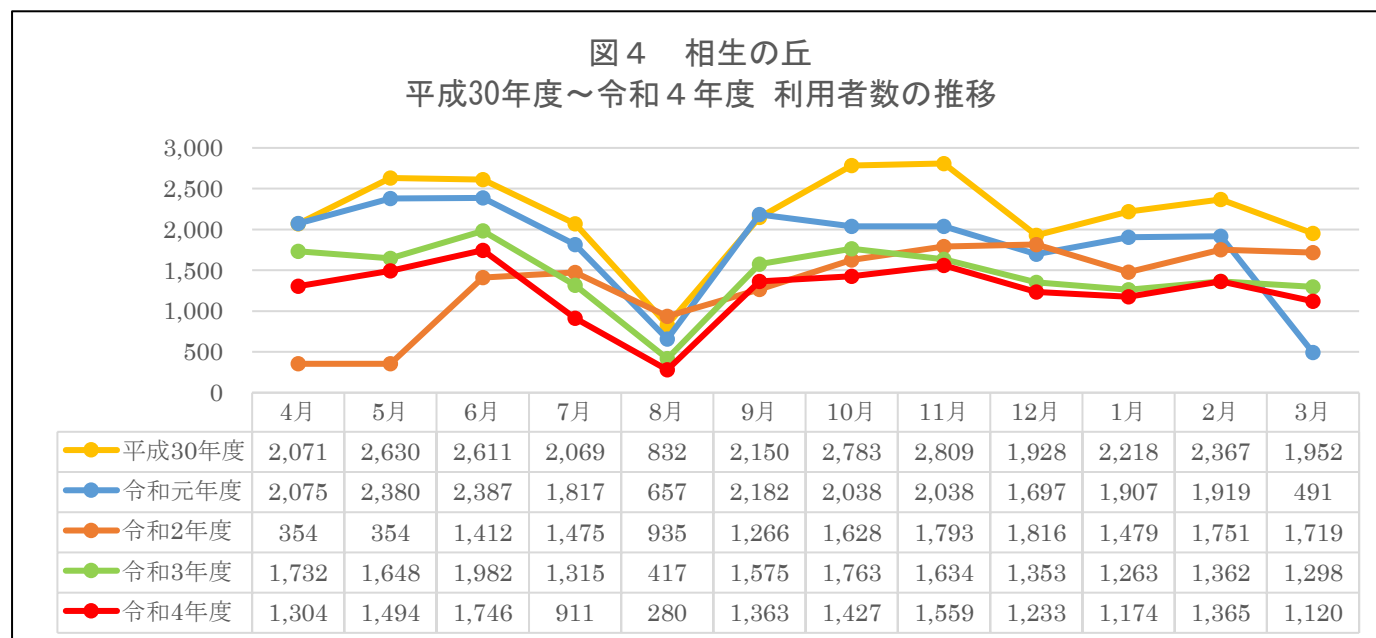
### ワースト第1位 相生の丘の利用者数の推移

令和4年度の相生の丘の利用者数は14,976人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、11,444人減（43%減）と大きく減少している。

図4から令和元年10月から利用者数が減少をしていること、図5から平成30年度と令和4年度の通学便（平成30年度の東ヶ丘団地線の7:30及び7:47の発着便、環状線（右回り）の7:30及び7:48の発着便）の利用者数が全体の利用者数の半数以上を占めていること、通学便の利用者数が6,407人減（34%減）と大きく減少していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の減少は、相生の丘のバス通学利用者の減少が主要因だと考えられる。

なお、相生の丘のバス通学利用者の人数は平成30年度が109人、令和元年度が105人、令和2年度が102人、令和3年度が87人、令和4年度が78人である（すべて4月現在の児童数）。



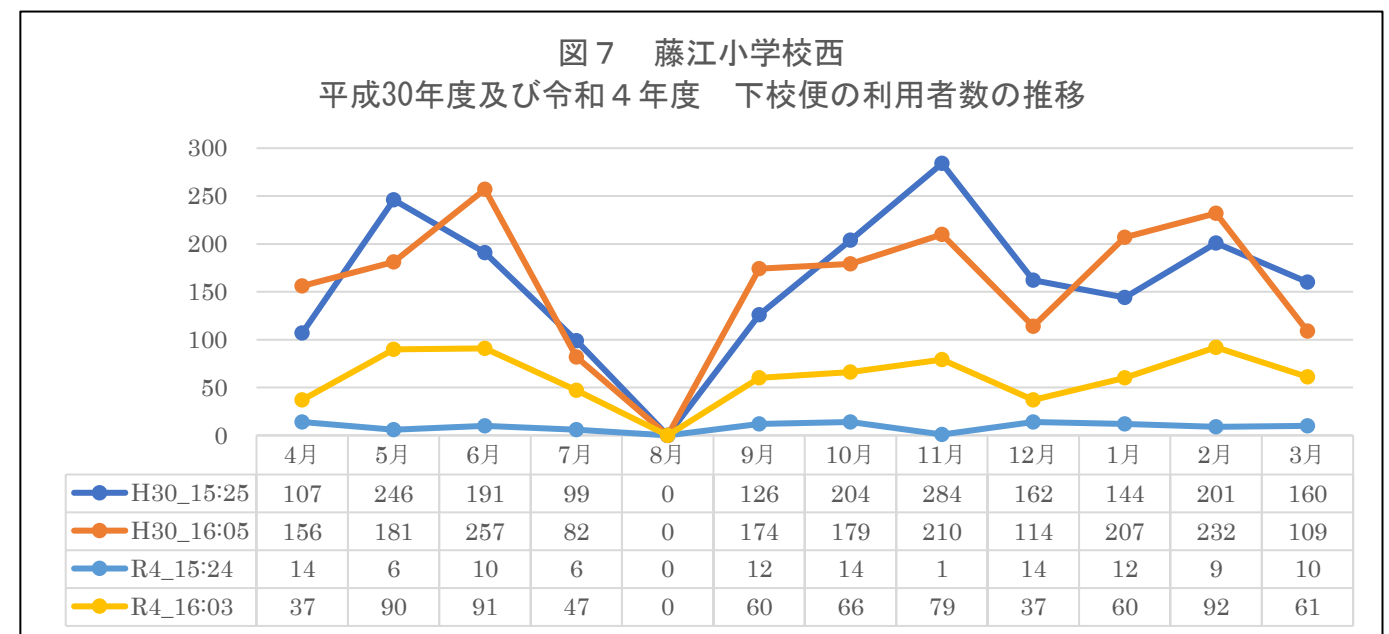
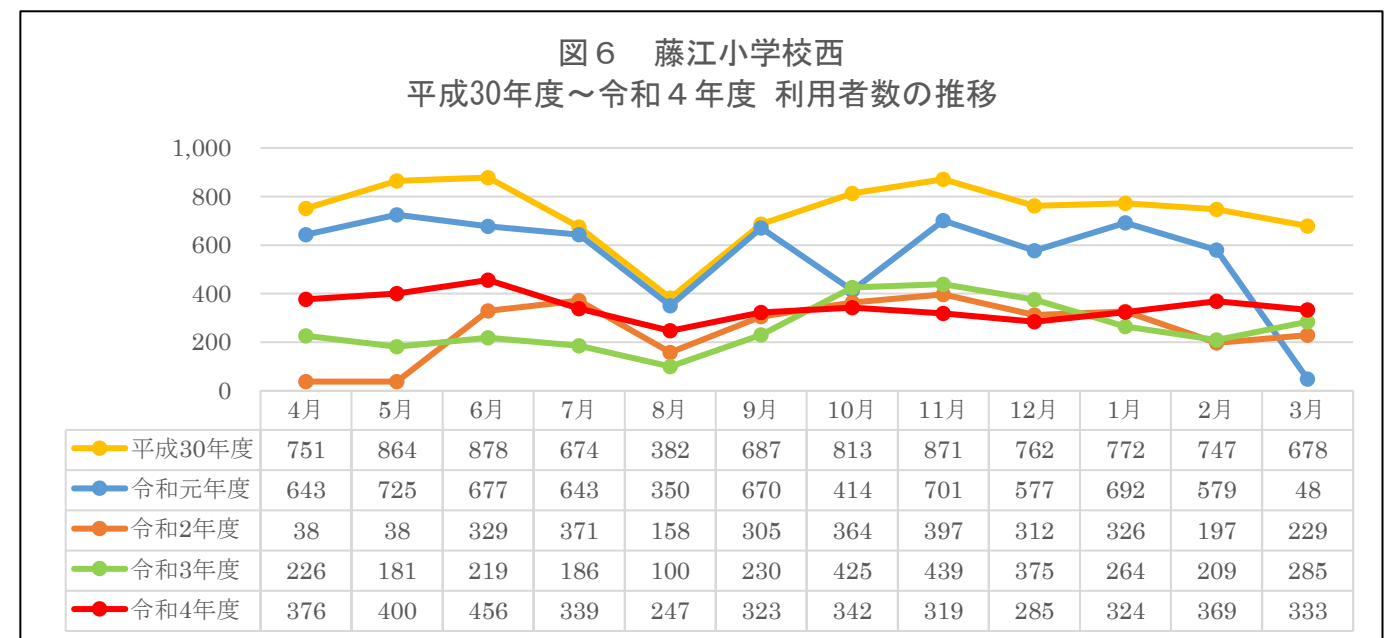
### ワースト第2位 藤江小学校西の利用者数の推移

令和4年度の藤江小学校西の利用者数は4,113人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、4,766人減（54%減）と大きく減少している。

図6から令和2年3月から利用者数が大きく減少していること、図7から平成30年度と令和4年度の下校便（平成30年度の平池台線の15:25及び16:05の発着便、環状線（右回り）の15:24及び16:03の発着便）の利用者数が2,997人減（78%減）と大きく減少していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の減少は、くすの樹の通所利用者が感染対策のため「う・ら・ら」から事業者送迎・家族送迎に切り替わっていることと、藤江小学校西から平池台にバスで下校する児童の減少が主要因だと考えられる。

なお、平池台のバス通学利用者の人数は平成30年度が36人、令和元年度が30人、令和2年度が25人、令和3年度が14人、令和4年度が15人である（すべて4月現在の児童数）。

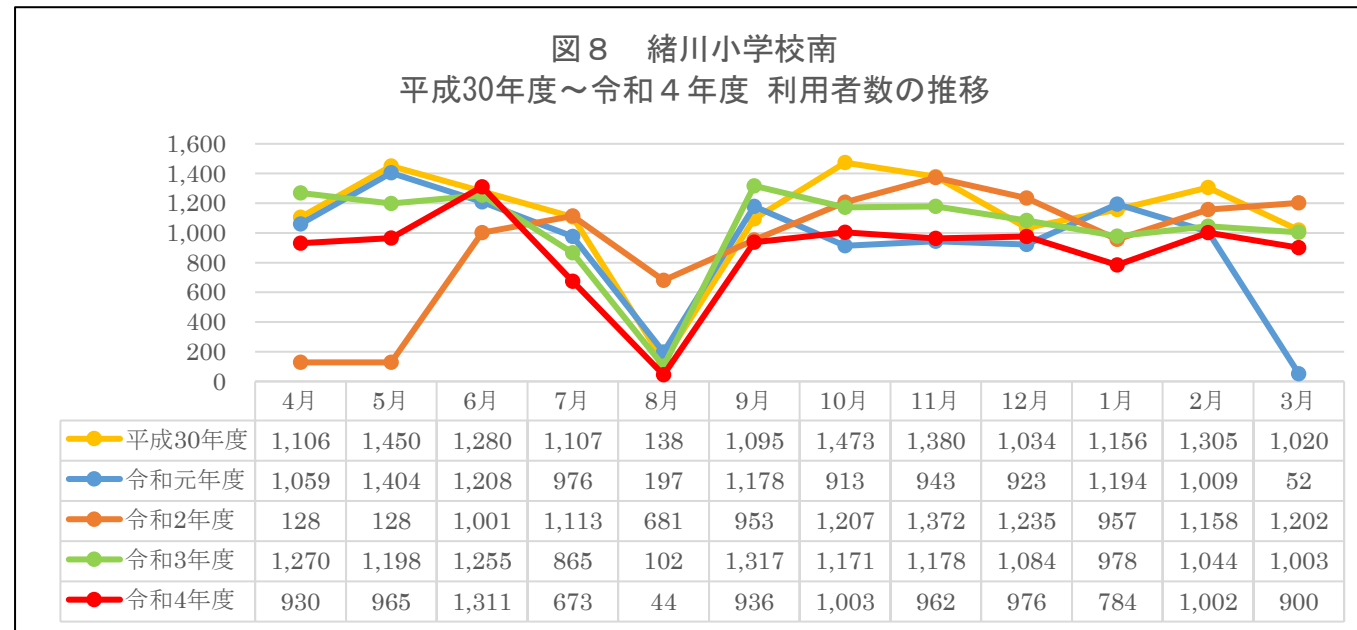


**ワースト第3位 緒川小学校南の利用者数の推移**

令和4年度の緒川小学校南の利用者数は10,486人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、3,058人減（23%減）と大きく減少している。

図8から、令和元年10月から利用者数が減少をしていることが分かる。また、表7から令和元年10月から運行便数が減少していることが分かる。

このことから、この利用者数の減少は、令和元年10月のダイヤ改正での減便による利用離れが主要因だと考えられる。



**表7 緒川小学校南の運行便数（便）**

	緒川駅方面	東ヶ丘方面	計
平成30年度	10	10	20
令和元年度（10月～）	10（2）	10（10）	20（12）
令和2年度（3月～）	2（2）	10（11）	12（13）
令和3年度～令和4年度	2	11	13

### (3) 増減率のトップ3・ワースト3 (令和4年度÷平成30年度)

各停留所の利用者数を、令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度と比較した場合の増減率については、表1及び表3に記載している。表8では、この中でのトップ3とワースト3をまとめている。

表8 令和4年度と平成30年度の増減率 トップ3・ワースト3

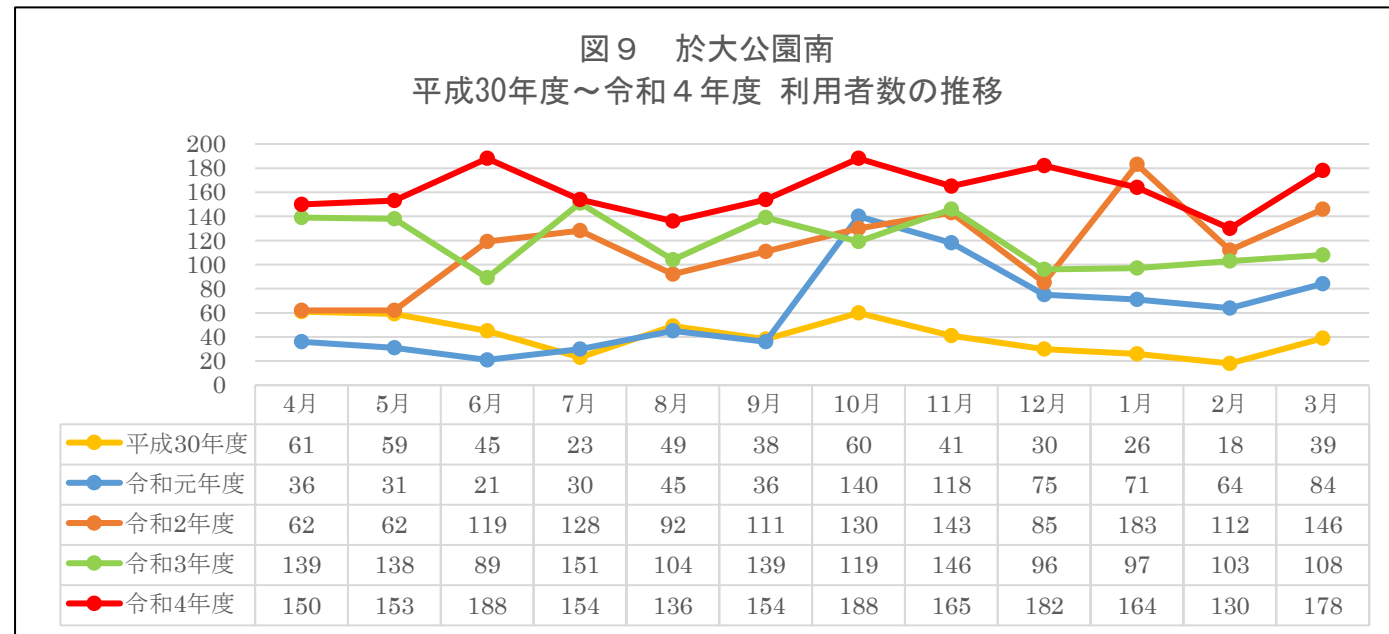
トップ	停留所	増減率	ワースト	停留所	増減率		
第1位	6	於大公園南	397%	第1位	28	高根口	16%
第2位	15	生路門田	303%	第2位	46	猪伏釜	22%
第3位	50	宮戸橋	300%	第3位	10	石浜住宅口	32%

#### トップ第1位 於大公園南の利用者数の推移

令和3年度の於大公園南の利用者数は1,942人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、1,453人増(297%増)と大きく増加している。

図9から令和元年10月から利用者数が増加をしていることが分かる。

このことから、この利用者数の増加は、令和元年10月のダイヤ改正時に導入した環状線及び東浦高校線(於大公園南経由)の運行により、於大公園南に発着する便数が増便したことが主要因だと考えられる。



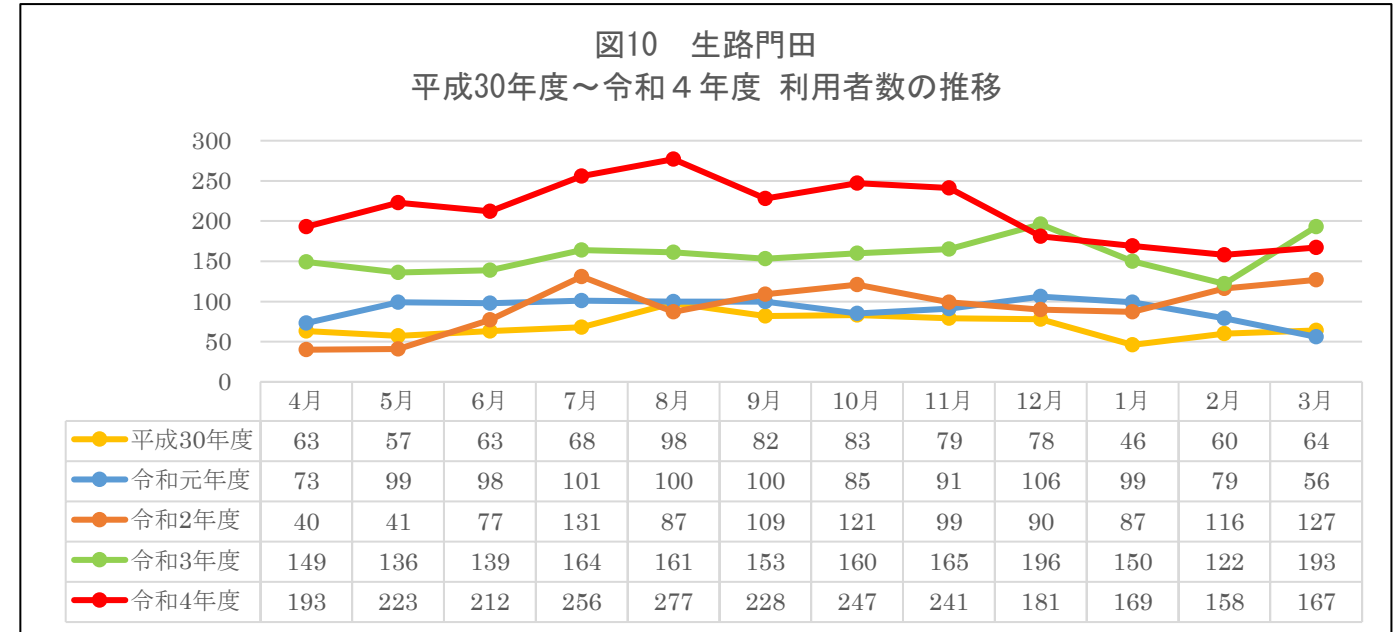
#### トップ第2位 生路門田の利用者数の推移

令和4年度の生路門田の利用者数は2,552人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、1,711人増(203%増)と大きく増加している。

図10から、生路門田の利用者数は年々増加傾向にあること、さらに令和3年2月から大きく増加していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、令和元年10月のダイヤ改正時に導入した環状線(左・右回り)及び東浦高校線(於大公園南経由)の運行により、生路門田に発着する便数が増便した

ことと、令和3年2月のダイヤ改正時にさらなる増便が実施されたことが主要因だと考えられる。

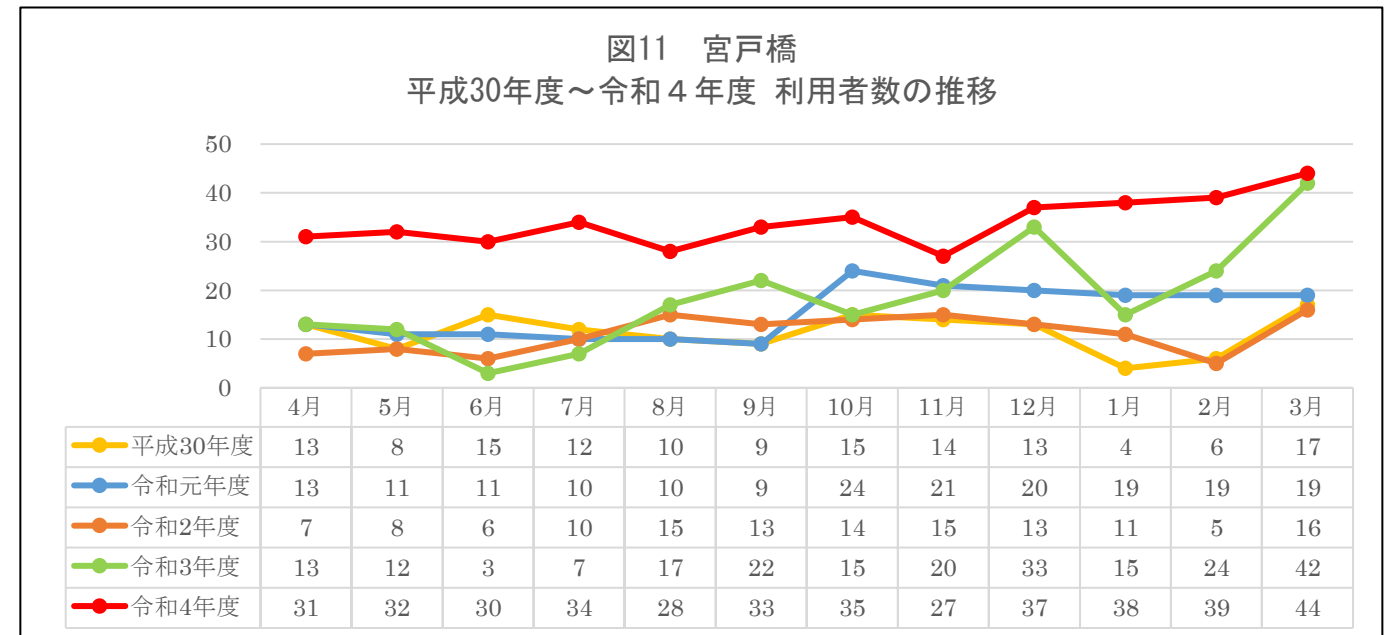


#### トップ第3位 宮戸橋の利用者数の推移

令和4年度の宮戸橋の利用者数は408人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、272人増(200%増)と大きく増加している。

図11から、宮戸橋の利用者数は令和4年2月から3月にかけて大きく増加していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、長寿線のイオンモール東浦への延伸を行った令和3年2月ダイヤ改正の効果が、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って出始めたことが主要因だと考えられる。



### ワースト第1位 高根口の利用者数の推移

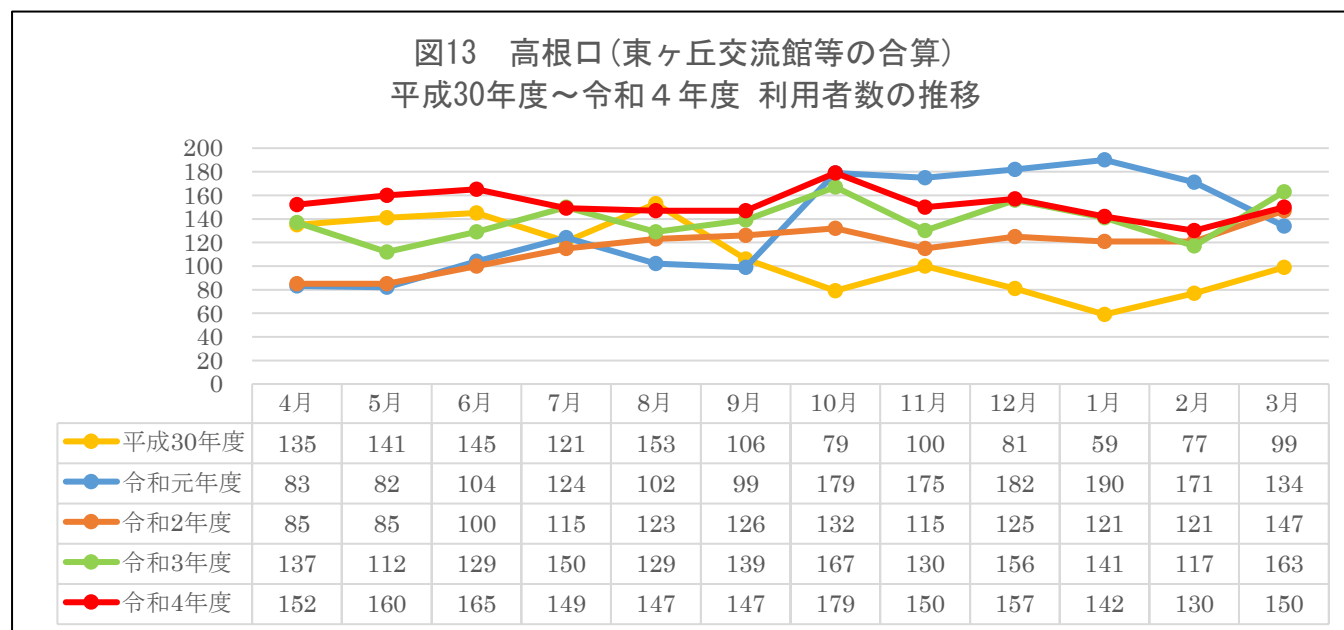
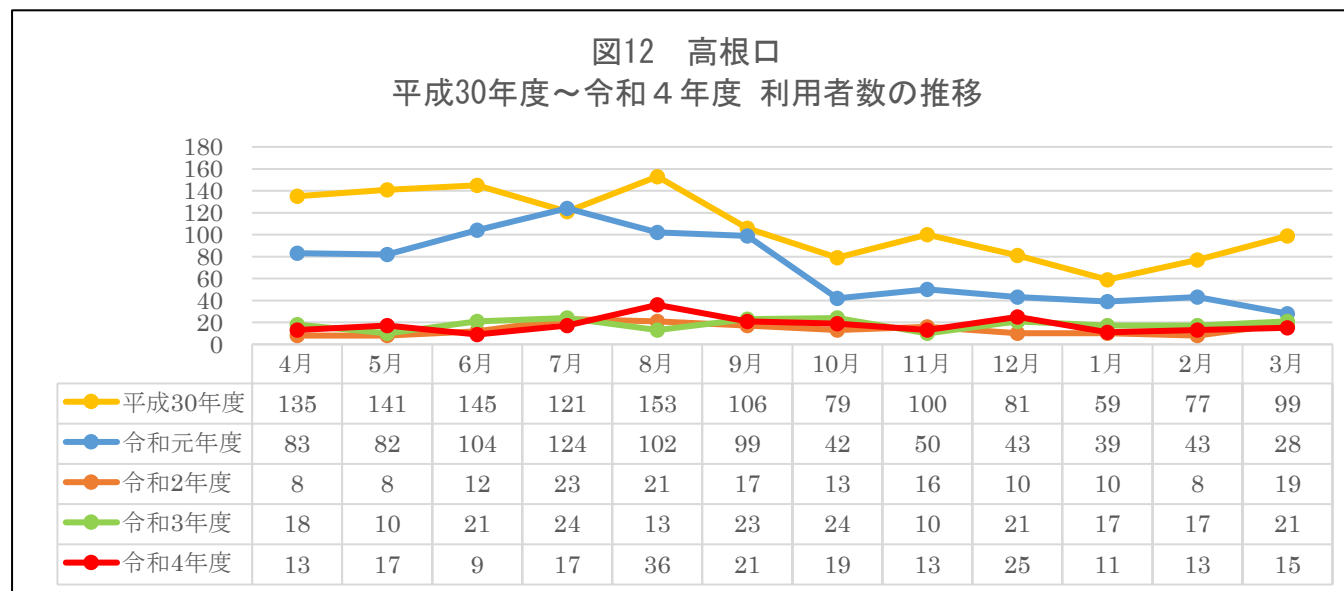
令和4年度の高根口の利用者数は209人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、1,087人減（84%減）と大きく減少している。

図12から、令和元年10月から利用者数が大きく減少をしていることが分かる。

なお、令和元年10月のダイヤ改正から、高根口は「高根口（東ヶ丘団地を周回する停留所）」と「東ヶ丘交流館（東浦知多IC方面に北上する停留所）」に分けたほか、高根口の東部に「高根口公園」、「上高根台西」、「上高根台東」が新設された。

平成30年4月から令和元年9月は「高根口」、令和元年10月以降は「高根口」と「東ヶ丘交流館」、「高根口公園」、「上高根台西」、「上高根台東」の利用者数を合算したものの推移をまとめたグラフが図13である。図13から、高根口（東ヶ丘集会所等の合算）の利用者数は、コロナ禍の影響を大きく受けた令和2年度を除くと増加傾向にあることが分かる。

以上のことから、この利用者数の減少は、令和元年10月のダイヤ改正でバス停を細分化及び新設したことによって、上高根台の利用者が分散したことが主要因だと考えられる。

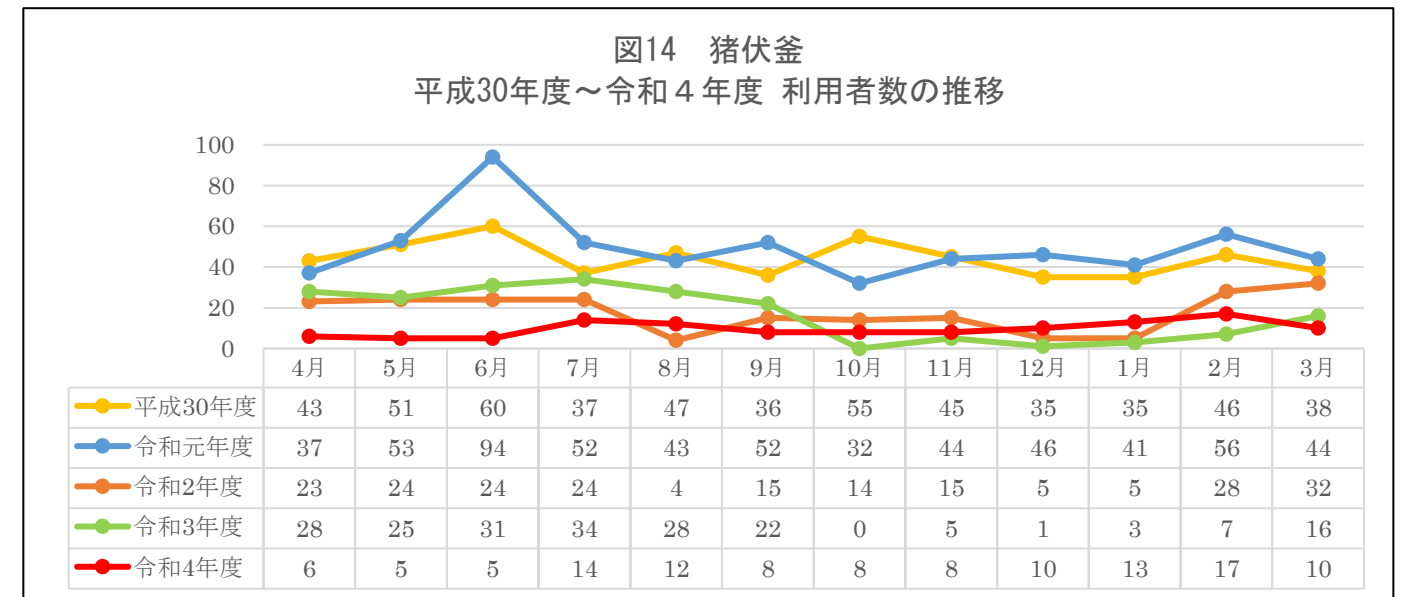


### ワースト第2位 猪伏釜の利用者数の推移

令和4年度の猪伏釜の利用者数は116人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、412人減（78%減）と大きく減少している。

図14から、令和元年10月のダイヤ改正のタイミングでの変化はなく、緊急事態宣言等の発令のあった令和2年度以降、利用者数が減少をしていることが分かる。

このことから、この利用者数の減少は、コロナ禍を経て変化した生活様式によって、定期利用者が離れたことが主要因だと考えられる。

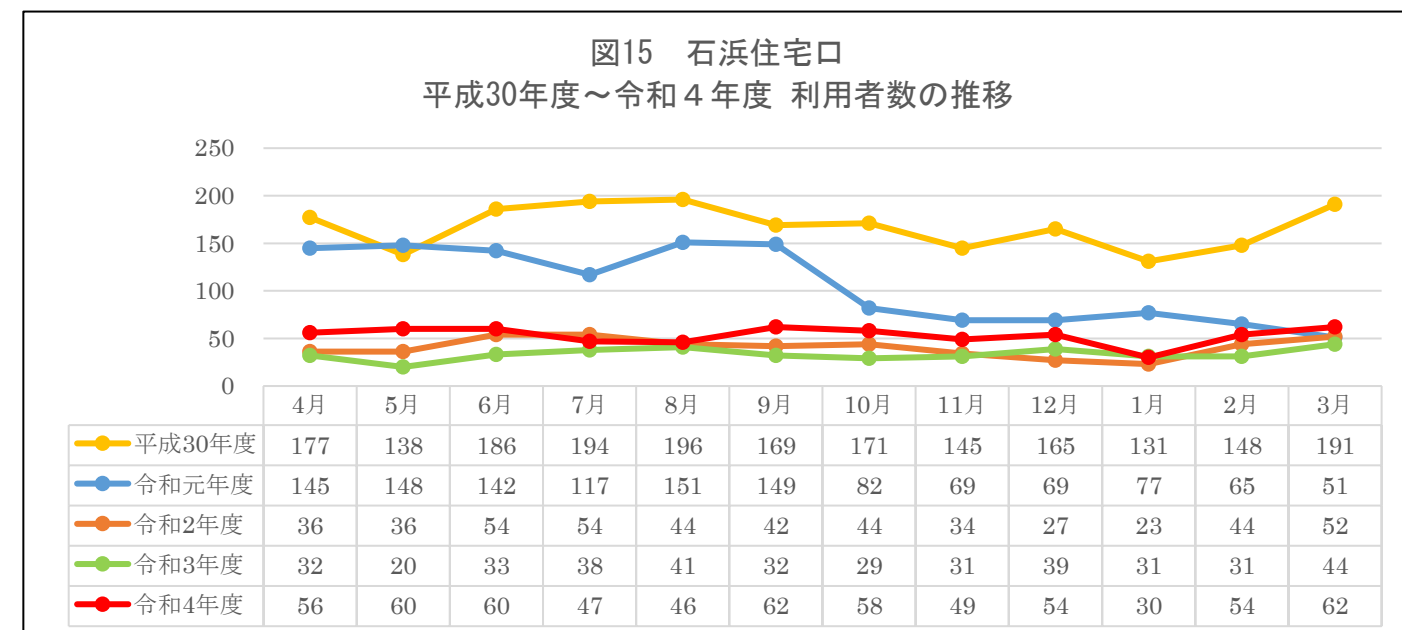


### ワースト第3位 石浜住宅口の利用者数の推移

令和4年度の石浜住宅口の利用者数は638人である。令和4年度とコロナ禍以前の平成30年度の利用者数を比較すると、1,373人減（68%減）と大きく減少している。

図15から、令和元年10月のダイヤ改正で利用者数が減少をしていることが分かる。

このことから、この利用者数の減少は、令和元年10月のダイヤ改正で路線が大きく変化したことで起きた利用離れが主要因だと考えられる。





#### (4) 増減者数のトップ3・ワースト3 (令和4年度－令和3年度)

各停留所の利用者数を、令和4年度とコロナ禍以降の令和3年度と比較した場合の増減数については、表1及び表4に記載している。表9では、この中でのトップ3とワースト3をまとめている。

表9 令和4年度と令和3年度の増減者数 トップ3・ワースト3 (人)

トップ	停留所	増減者数	ワースト	停留所	増減者数		
第1位	2	イオンモール東浦	5,562	第1位	43	相生の丘	△ 2,366
第2位	1	緒川駅東口	3,555	第2位	47	緒川小学校南	△ 1,979
第3位	65	刈谷駅南口	2,029	第3位	11	石浜南	△ 355

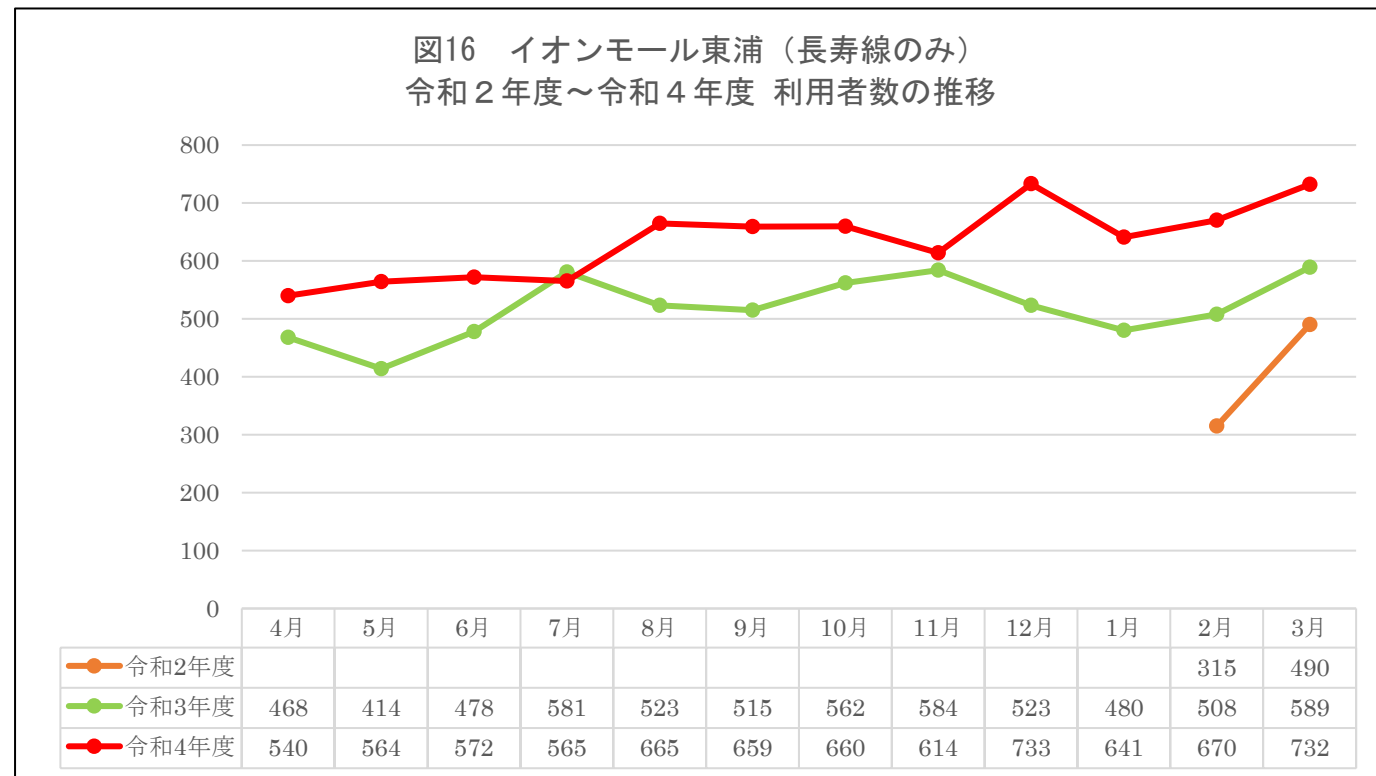
##### トップ第1位 イオンモール東浦の利用者数の推移

令和4年度のイオンモール東浦の利用者数は46,109人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、5,562人増(14%増)と大きく増加している。

図1から、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置に伴う外出自粛によって、令和3年度の利用者数は横ばいであったこと、令和3年2月から増加傾向にあることが分かる。

図16は、令和3年2月から長寿線が乗り入れを開始した「イオンモール東浦」の利用者数の推移をまとめたものである。このグラフから、令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると1,390人増(22%増)と大きく増加していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、緊急事態宣言等の有無による利用者数の差だけでなく、長寿線のイオンモール東浦への延伸を行った令和3年2月ダイヤ改正の効果が、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って出始めたことが主要因だと考えられる。

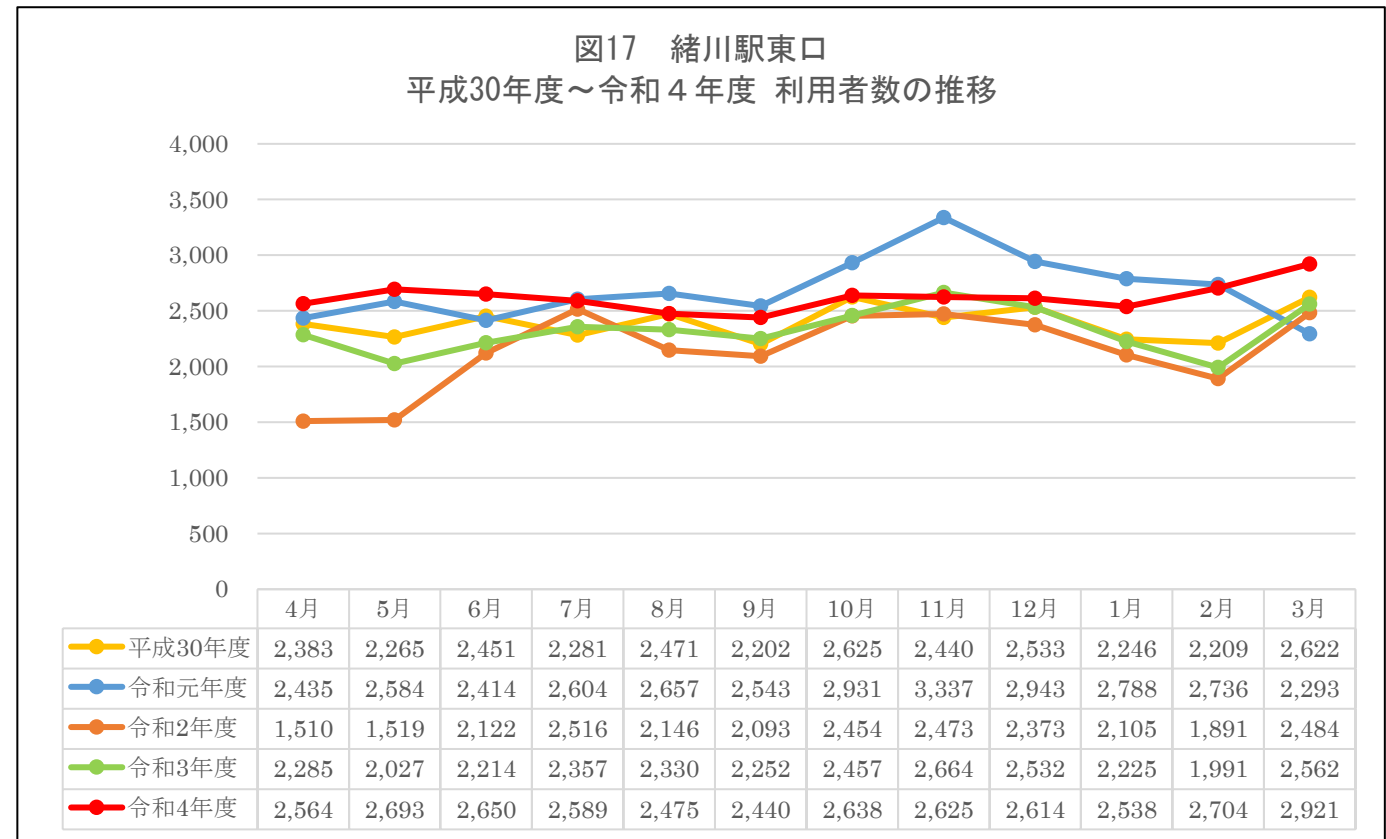


##### トップ第2位 緒川駅東口の利用者数の推移

令和4年度の緒川駅東口の利用者数は31,451人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、3,555人増(13%増)と増加している。

図17から、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置に伴う外出自粛によって、令和3年度の利用者数は横ばいであったこと、令和4年度の利用者数が11月を除いたすべての月で上回っていることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、緊急事態宣言等の有無による利用者数の差だけでなく、発着時刻・乗り継ぎ待機時間の見直しを行った令和3年2月ダイヤ改正の効果が、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って出始めたことが主要因だと考えられる。



##### トップ第3位 刈谷駅南口の利用者数の推移

令和4年度の刈谷駅南口の利用者数は11,810人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、2,029人増(21%増)と大きく増加している。

図3から、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置に伴う外出自粛によって、令和3年度の利用者数は前年度比で横ばいであったこと、令和4年度の利用者数すべての月で上回っていること、令和4年3月から大きく増加傾向にあることが分かる。

以上のことから、この利用者数の増加は、緊急事態宣言等の有無による利用者数の差だけでなく、発着時刻・乗り継ぎ待機時間の見直しを行った令和3年2月ダイヤ改正の効果が、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って出始めたことが主要因だと考えられる。

### ワースト第1位 相生の丘の利用者数の推移

令和4年度の相生の丘の利用者数は14,976人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、2,366人減（14%減）と大きく減少している。

図4から、令和3年度に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令している期間においても、令和4年度の利用者数が下回っていること、図5から令和4年度と令和3年度の通学便（環状線（左回り）の7:30及び7:48の発着便）の利用者数が全体の利用者数の半数以上を占めていること、通学便の利用者数が1,931人減（13%減）と大きく減少していることが分かる。

以上のことから、この利用者数の減少は、相生の丘のバス通学利用者の減少が主要因だと考えられる。

なお、相生の丘のバス通学者の人数は平成30年度が109人、令和元年度が105人、令和2年度が102人、令和3年度が87人、令和4年度が78人である（すべて4月現在の児童数）。

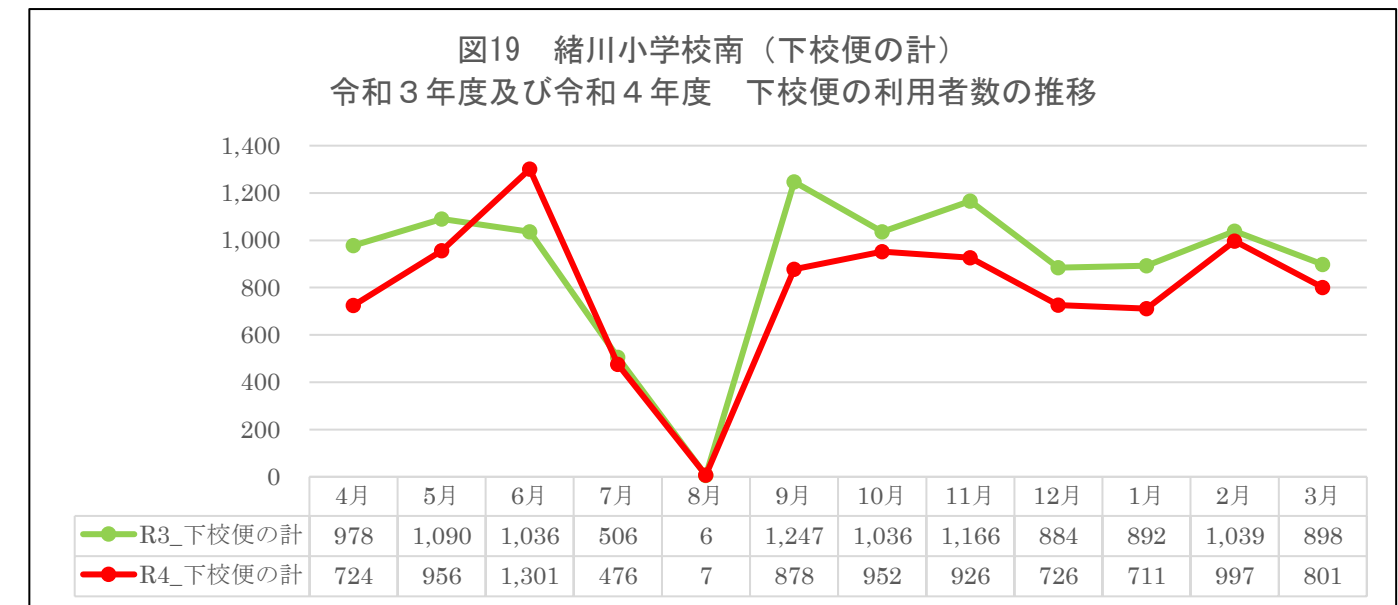
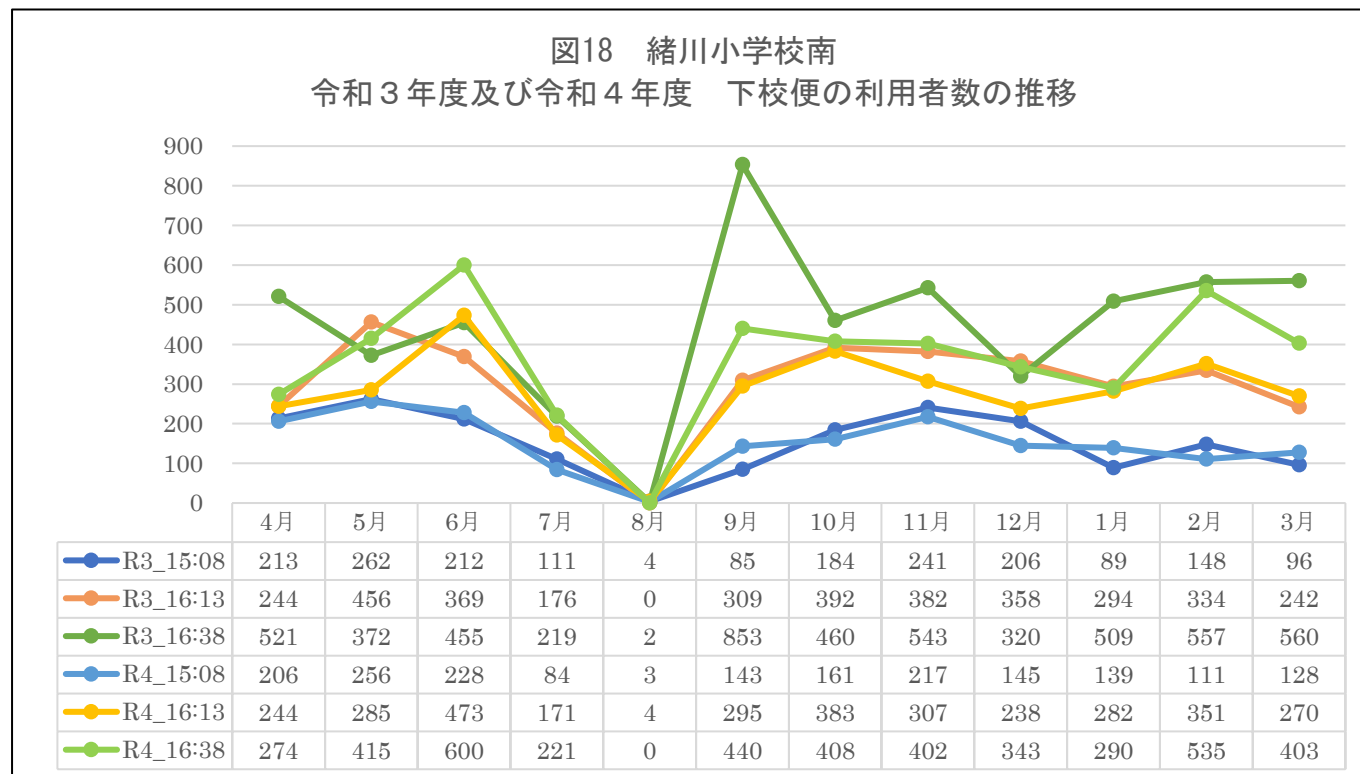
### ワースト第2位 緒川小学校南の利用者数の推移

令和4年度の緒川小学校南の利用者数は10,486人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、1,979人減（16%減）と大きく減少している。

図8から、令和3年度に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令している期間（6月を除く）においても、令和4年度の利用者数が下回っていることが分かる。

また、図18及び図19から令和3年度と令和4年度の下校便（環状線（左回り）15:08、16:13及び16:38発着便）の利用者数が全体の利用者の半数以上を占めていること、下校便の利用者数は令和4年度が9,455人、令和3年度が10,778人であるため、1,323人減（12%減）と減少している。

以上のことから、この利用者数の減少は、緒川小学校南の下校利用者の減少が主要因だと考えられる。

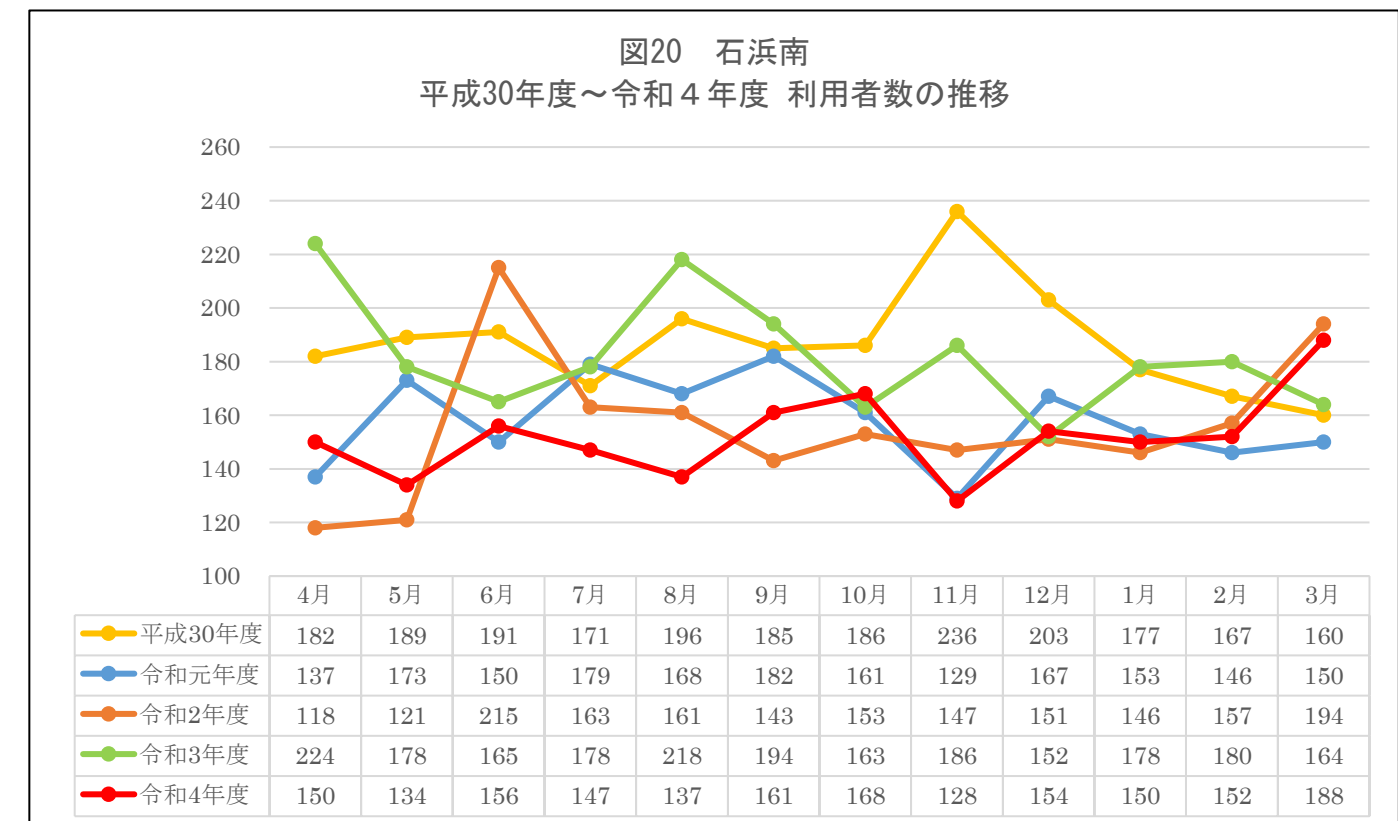


### ワースト第3位 石浜南の利用者数の推移

令和4年度の石浜南の利用者数は1,825人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、355人減（16%減）と減少している。

図20から、令和元年10月から減少傾向にあったが、令和3年度は局所的に利用者数が多い期間があること（4月、7月～9月）、令和4年度の利用者数は、10月と2月を除く全ての月で令和3年度より下回っていることが分かる。

以上のことから、この利用者数の減少は、令和3年5月から開始したワクチンの集団接種の会場（文化センター）への移動ニーズで一時的に増加した利用者数との差が主要因だと考えられる。



### (5) 増減率のトップ3・ワースト3 (令和4年度ー令和3年度)

各停留所の利用者数を、令和4年度とコロナ禍以降の令和3年度と比較した場合の増減率については、表1及び表5に記載している。表10では、この中でのトップ3とワースト3をまとめている。

表10 令和4年度と令和3年度の増減率 トップ3・ワースト3

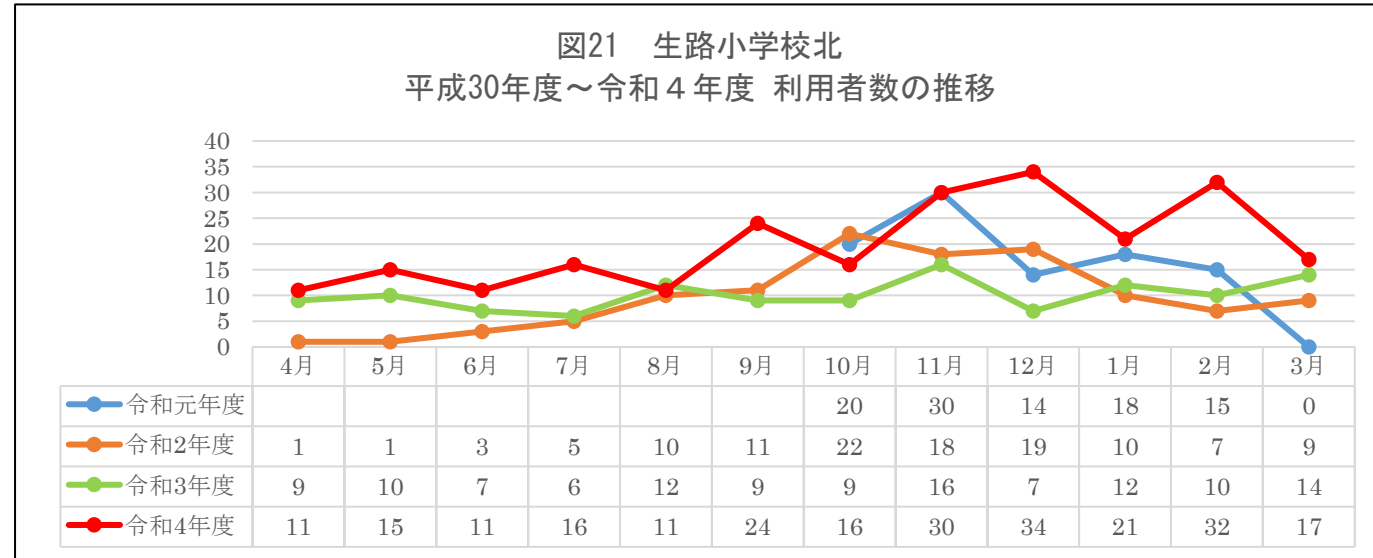
トップ	停留所	増減率	ワースト	停留所	増減率		
第1位	76	生路小学校北	197%	第1位	78	東浦葵ノ荘	0%
第2位	69	ふじが丘	192%	第2位	72	芦間	45%
第3位	75	体育館西	188%	第3位	46	猪伏釜	58%

#### トップ第1位 生路小学校北の利用者数の推移

令和4年度の生路小学校北の利用者数は238人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、117人増(97%増)と大きく増加している。

図21から、1月当たりの利用者数は多くはないが、令和元年10月の新設時から利用者数は増加傾向にあることが分かる。

このことから、この利用者数の増加は、運行開始から一定期間経過したことによる認知度の向上や、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って小型車両(ハイエース)を敬遠する意識が薄れたことで、利用者が定着したことが主要因だと考えられる。



#### トップ第2位 ふじが丘の利用者数の推移

令和4年度のふじが丘の利用者数は915人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、438人増(92%増)と大きく増加している。

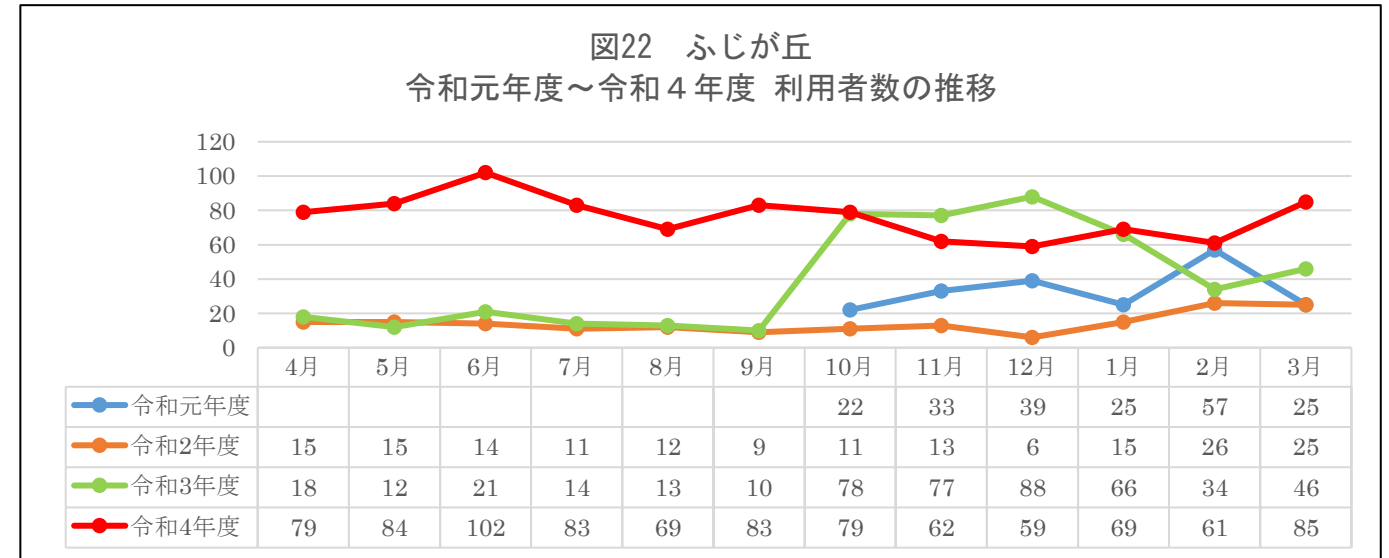
図22から、令和3年10月から大きく増加し、令和4年度の利用者数は継続して1月当たり60～100人程度となっていることが分かる。

令和3年10月からの増加は、東浦高校線(文化センター経由)「ふじが丘」15:28発の利用者数の増加が主であり、本便の利用者数が全路線の「ふじが丘」を合計した利用者数の過半数を占

めている。

また、令和4年1月～3月の減少についても東浦高校線(文化センター経由)「ふじが丘」15:28発の利用者数の減が主であり、本バス停近くの愛光園地域居住サポートセンターの通所利用者は本期間から感染対策で事業者・家族送迎に切り替わっている。

以上のことから、この利用者数の増加は、本バス停近くの愛光園地域居住サポートセンターから帰宅する利用者が、「う・ら・ら」を定期利用するようになったことが主要因だと考えられる。

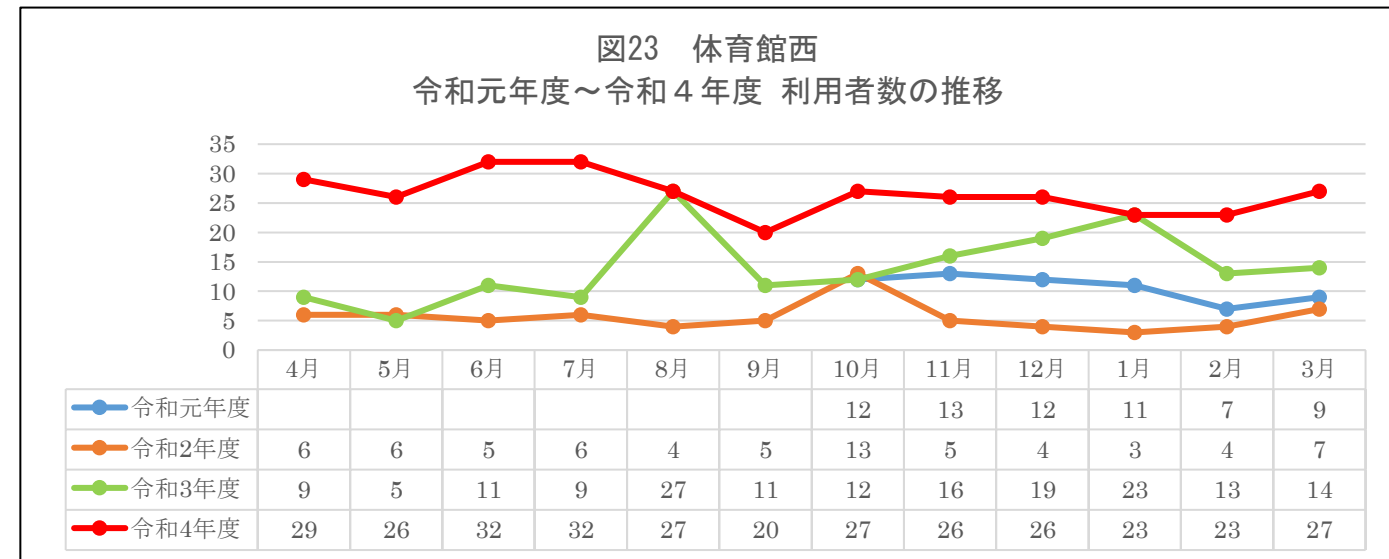


#### トップ第3位 体育館西の利用者数の推移

令和4年度の体育館西の利用者数は318人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、149人増(88%増)と大きく増加している。

図23から、1月当たりの利用者数は多くはないが、令和元年10月の新設時から利用者数は増加傾向にあることが分かる。

このことから、この利用者数の増加は、運行開始から一定期間経過したことによる認知度の向上や、感染者数の減少等による外出意識の変化に伴って小型車両(ハイエース)を敬遠する意識が薄れたことで、利用者が定着したことが主要因だと考えられる。



### ワースト第1位 東浦葵ノ荘の利用者数の推移

令和4年度の東浦葵ノ荘の利用者数は0人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、4人減（100%減）と減少している。なお、本バス停では利用者数が少なく、増減の傾向が掴めないため、事実のみをまとめる。

図24から、令和元年度から1月当たり0～1名の利用者数で推移しているため、利用者がいない中での増減率であることが分かる。



### ワースト第3位 猪伏釜の利用者数の推移

令和4年度の猪伏釜の利用者数は116人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、84人減（42%減）と減少している。

図14から、令和元年10月のダイヤ改正のタイミングでの変化はなく、緊急事態宣言等の発令のあった令和2年度以降、利用者数は徐々に減少をしており、令和3年10月からさらに減少傾向にあったことが分かる。

このことから、この利用者数の減少は、コロナ禍を経て変化した生活様式によって、定期利用者が離れたことが主要因だと考えられる。

### ワースト第2位 芦間の利用者数の推移

令和4年度の芦間の利用者数は131人である。令和4年度と令和3年度の利用者数を比較すると、160人減（55%減）と減少している。

図25から、15～40人程度と1月当たりの利用者数は多くはないが、一定数いた利用者が令和3年10月から減少していることが分かる。

このことから、この利用者数の減少は、芦間の定期利用者が離れることが主要因だと考えられる。

